



こんな本も読んでみましょう

選者：児童文学者 百々 佑利子

作：あまん きみこ

「こぐまのくうちゃん」

なかなかおりできるかな？

こぐまのくうちゃんは、きれいな赤い花をつみました。うさぎのぴょんこちゃんにあげようとおもったのです。ところがそれは、ぴょんこちゃんが、早くさかないかなと、たのしみにまっていた花でした。ぴょんこちゃんは、ないてしまいます。くうちゃんは、花びらたちのおかげで「こわーいくまのこ」ではないことを、ぴょんこちゃんにわかってもらえました。なかなかおりもできました。

作：あまん きみこ

「きつねのかみさま」

なわたとびのひもは、だれものもの？

お姉ちゃんのりえとおとうとは、お姉ちゃんがこうえんにわすれた、なわたとびのひもとりにいきました。すると、こぎつねたちが、「ぐるっとまわって きつねのめ」と、うたいながらあそんでいます。ひもには「りえ」とかいてあります。けれども、こぎつねのりえちゃんが、かみさまからのおくりものだということで、お姉ちゃんは、このひもをあげることにしました。

作：五味 太郎

「みんながおしえてくれました」

かくれんぼで「おにに みつからない、かくれかた」って？

「はなの かおりや あじのこと」は、ちょうちょにおしえてもらいました。「おにに みつからない かくれかた」は、うさぎにおしえてもらいました。「つちのなかの ひみつ」は、ありにおしえてもらいました…。いろいろなことを、たくさんの友だちからおしえてもらえる、お話です。

編：斎藤 孝

「外郎売(ういろうり)」

早口ことばがうまく言える、くすりって？

「ういろう」はくすりのことです。のむと、なめらかに、したがまわるといわれます。ういろう売りは、一つぶのんでみせて、よくきくしょうこに、「そりゃそりゃ、そらそりゃ、まわって来たわ、まわって来るわ」と、早口ことばを、どんどん言っていきます…。昔の人もあそんでいた早口ことばを、声にだして読んでみると楽しいお話です。